

事業所名		札幌市はるにれ学園		公表日		2026・2・	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12	1	登園人数と園児の状況に合わせて様々なスペースを利用して、安心できるスペース作りをしている	・別室でクールダウンしたい児がいた時などは、部屋が足りないと感じることもある ・定員全員が通所した場合はスペースが狭いと予想される	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	3	子どもの動きに合わせて、職員間で工夫しながら、適切な配置にしている	子どもの状況や場面によっては職員数が必要だと感じる時がある	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13	0	・それぞれのクラスで子どもに合わせた環境設定・整備を行っている ・老朽化している部分が多いため、日々の点検が必要 ・教室ドアや子どものロッカーに顔写真があり、子どもが自分のクラスやロッカーがわかりやすくしている		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12	1	・朝の準備の時間に点検を行い、危険箇所がないか、ゴミは落ちていないかなど確認する ・各クラスで子どもの姿に合わせて空間づくりをしている ・日々の点検や環境整備等定期的に行っている ・活動内容に合わせて椅子やテーブルを配置したり、感触遊びなど思う存分遊べるように床にビニールを敷くなどしている		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13	0	・個別の部屋を使用して、落ち着ける環境を提供できるようにしている ・他クラスと連携をとりながら、プレイルームなどを使い、子どもの安心・安全が確保できるように配慮している		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12	0	・期ごとに目標や反省などを共有している ・年間目標(クラス、単独)については目標設定と反省を全体で共有している		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	0	保護者評価から、全員で話し合う機会を設け、業務に活かしている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	0	・ミーティングや職員会議などで、意見は発信できている。課題などに対しては職員で意見を出し合い、対応を考え、全員が同じ方向に向かえるようにしている ・検討事項は、トップダウンではなく、職員全体で意見交換をする機会を設けている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	12	外部評価は実施していないが、内部監査により評価し、業務改善へつなげている		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13	0	外部の研修のほか、園内研修やちくたく3園研修など、定期的に研修を受ける機会がある		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13	0	ホームページや玄関掲示で公表している		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	13	0	・遠城寺発達検査も使いながらアセスメントを行い、保護者にもアンケートや聞き取りでニーズや課題を確認したうえで、計画の作成を行っている ・保護者のニーズと少し離れてしまう内容の場合には、提示の際に口頭で分かりやすく説明を行っている		

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13	0	計画作成時には、関係職員で会議を実施し、多角的な視点で子どもを理解し、計画を作成するようにしている	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	0	共通認識しながら支援している	他のクラスの個別支援計画書については把握しきれていない
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13	0	・アセスメントは、支援計画の時に、職員間でも成長発達を確認している ・遠城寺式発達検査を用いて子どもの発達段階を把握している	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13	0	ガイドラインを定期的に確認するようにしている	「家族支援」「地域支援・地域連携」の項目についてはほぼ同じ内容になりがちであるため、個別の支援計画であることをより意識する
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	0	クラスごとの活動内容を調整したり、季節ごとの活動がより充実できるように話し合いながら取り組んでいる	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13	0	・一週間の中で体を動かす遊び、感覚遊びなどバランスよく入れるようにしている ・個々の発達段階や興味に合わせて、課題や教材にバリエーションをつけるように努めている	できるだけ様々な活動ができるように調整しているが、登園曜日、回数によって、あまり経験できない活動が出てしまうこともある
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	13	0	・基本的には集団だが、子どもの発達に合わせて活動の中で重点的に必要な支援を組み入れ、個別の支援を行うようにしている ・友達への興味の広がりが見られている際には、集団活動を行えるよう計画を立て、実践している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	0	毎朝ミーティングを実施し、その日の活動予定や子どもへの留意事項、職員の役割分担や配置などを確認している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13	0	ミーティングを実施し確認できている。また、その時に漏れていても、全体で伝えあう雰囲気ができている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	0	・子どもの姿は日々変わるため、振り返りも含めて記録をとり、次に活かしている ・毎日クラスの様子と、個別の様子を記録し、必要な時に見返したり、反省したりしている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13	0	新入園児は2～3か月、継続児は半年ごとにモニタリングで評価し、計画の見直しを行っている	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13	0	相談支援事業所と契約している利用者は少ないが、担当者会議実施の際は、児発管だけでなく担当者も出席することで、より具体的な話ができるようにしている	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13	0	保護者の同意のもと連携を行っている	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	0	併行利用先に見学に行ったり、移行先へ引継ぎを行う中で、支援内容などを共有できるようにしている		
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	0	就学先と連絡を取り、引継ぎを行ったりして、支援内容などの情報共有をしている		
	(28～30は、センターのみ回答)			年に1回研修会を開催し、学びの場や事業所間の交流・情報交換の場を設けている		

関係機関や保護者との連携	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	13	0	所間の交流・情報交換の場を設けている	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	13	0	・3園合同研修で様々な職種の方からの講話が聞けているのはよい機会だと感じる ・ちくたくと連携し、セラピスト職とカンファレンスを行ったり、研修を受けている	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	12	1		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	13	0	年に数回、近隣の公立保育園と交流する機会をもっている。また、公園に散歩に行き、地域の子どもと関わることがある	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	0	・定期的な懇談以外に、必要な時は適宜懇談するようにした ・連絡帳や送迎時に確認しあい、互いの状況を伝えあっている	バス通園の保護者とのコミュニケーションに難しさを感じる。直接登園の機会を逃さず、日頃の様子を伝えあい、関係機関との連携の確認なども行いたい
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13	0	保護者勉強会を定期的実施した	・参加家庭が偏りがちなので、案内の際に担当からも説明したい ・ペアレントプログラムは案内をしているが、ちくたくで実施することになったことで登園に送迎してからでは開始時間に間に合わないなど、参加を進めにくい状況だと感じる
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13	0	契約時や年度のはじめに保護者に説明を行っている	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13	0	保護者の意向を聞き取ってから計画を作成し、極力意向に沿った内容を組み込むよう心がけている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	13	0	・懇談時に説明を行い、同意を得ている ・具体的なお子様の様子を伝えながら、わかりやすく知らせるように配慮している	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13	0	・保護者に活動に参加してもらった上で、懇談を行い、計画説明や助言、支援を行っている ・口頭での相談だけでなく、連絡帳に記載されている内容で困っていることが予測されるときなどは、必要に応じて声がけをし、面談を行っている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13	0	・きょうだい参加日には、きょうだいだけで活動する時間を設けたり、行事では、きょうだいに参加してもらい、交流できるようにしている ・保護者交流の機会を年に2回もち、いろいろな保護者と関われる機会を提供している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13	0	相談があった時には、適宜、時間をとって懇談をしたり、対応内容について職員間で共有して対応している	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13	0	・お便りで様子や情報を発信している ・園だよりでは写真を載せるなど視覚的にも子どもたちの様子がわかりやすく伝わるよう工夫している。	
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13	0			

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13	0	・子どもに対して、個々の姿に応じてわかりやすい方法(ジェスチャー、写真カード、文字など)で意志の疎通や情報伝達を行っている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	11		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12	1	・それぞれマニュアルを策定し、確認できるようにしている。また、いろいろな想定のもとで毎月避難訓練を実施し、保護者に周知している ・不審者訓練では、今年度警察に依頼し、対応の確認や研修を実施した	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13	0	BCPを策定し、訓練を行っている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	13	0	入園児の聞き取りで、丁寧に様子を聞き取り、情報を共有している。 疾患や服薬については、看護師が確認をし、てんかんやアレルギー発作発症時の緊急事態に備えてマニュアルを作成し、迅速に対応できるようにシミュレーションを行っている	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	0	入園児の聞き取りで、栄養士・看護師が聞き取り、対応を徹底している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13	0	・安全計画に基づき、毎日の点検などを通して施設の安全管理を行っている ・水遊びの対応やSIDSの予防、事前の事故防止についてなどのマニュアルがあり、都度確認しながら支援を行っている	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13	0	毎日のミーティングの中で情報を共有し、対策について考えている	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13	0	毎年研修を実施し、自身の行動が虐待に当たらないか常に考えている。また、職員もおおむね一部屋に複数人おり、虐待が起こりにくい環境になっている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13	0	身体拘束について契約書に記載し、保護者には契約時に説明をおこなっている	